

二六一九番

朝影あさかげに 我あが身みはなりぬ 韓衣からころも 裾すそのあはずて  
久ひさしくなれば

二六二〇番

解とき衣きぬの 思おもひ乱みだれて 恋こふれども なぞ汝なが故ゆゑ  
と 問とふ人ひともなき

二六二一番

摺すり衣ころも 着けりと夢いめに見みつ 現うつには いづれの人ひと  
の 言ことか繁しげけむ

二六二三番

志賀しかの海人あまの 塩焼しほやき衣ころも なれぬれど 恋こひとい  
ふものは 忘わすれかねつも